



京都市文化観光資源保護財団

会報

No.65



もくじ

京のよさをまもって 沖縄県立芸術大学教授 伊砂 利彦 P 2

京のやしろと文化財(8)「八坂神社と文化財」

八坂神社宮司 眞弓 常忠 P 4

京の伝統行事芸能(27)「上賀茂さんやれ」

上賀茂さんやれ連絡協議会役員 芝 昭夫 P 6

京の年中行事 (11月～1月) P 8

保護財団の活動 P 10

会報題字 理事長 上山善紀
表紙 建仁寺 開山堂 方丈襖絵

会	報
No.65	1993. 11. 1
編集・発行 財団 京都市文化観光資源保護財団 法人 京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内 〒606 電話 075-752-0235 (代)	



京のよさをまもって

伊 砂 利 彦

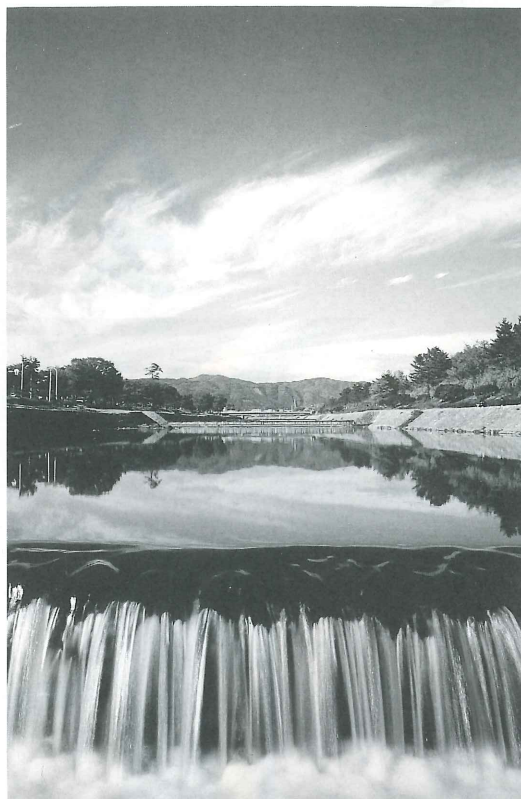
あらためて、京のよさをまもって、と考えるとき、この標題の大きさを痛感しているものです。

私は現在、京を離れて、沖縄に在る日数の方が多い生活をしておりますが、故郷をはなれて初めて、その良さを識るというのと同じ様な想いを持っております。

京都は一般的に申せば、四季の変化による景色は美しく、京ことばは優しく、心のふるさととしての社寺仏閣は多く、古い文化財の鑑賞はことかかず、学問教育の場としては充実しており、全く恵まれた環境の中に浸れるわけですが、市民として常にこれに気付きつつ生活しているかという、そうではなく、又他所の人々も、住み易い土地だとはいはぬ人も多いのです。

この原稿を書くに当り、毎年続けて京都へ来る人に、何に魅かれて来るのかと、ずばり尋ねてみた。その返事は、おだやかな家並、日本旅館に泊って、年末年始からはじまる京の土地に根ざして、尚どこか粋で華やかな行事に、幾日かを京都市民同様にふるまう楽しさこそ日本人の里帰りの様な思いがする。日本を知りたいれば京都へと、外人をよく案内して来ると、大いに感謝されると言っている。

旅行者だけでなく、住む者にとってもたしかに良い所だ。災害は少なく、国の真中に位置する故、四方から物産が集る。古くから培われた



四季の自然景観が美しい京都。写真は鴨川の風景

手わざや鑑識眼によって生活に密着した楽しさが満ちている。花が咲き、雨が降り、雪になっても総て自分達の生活の中にとり込んで楽しむ。又、せまい盆地の中の都会の住居として、俗にいう、うなぎの寝この町家の露地や坪庭等、工夫を楽しむ智慧の賜物と感心する。この智慧も遺産の一つであり、実に充実した私達の身辺であるが、やはり住民と旅行者の相違があり、住民として、これらのよさをまもるためには、現実の生活を相当に犠牲にしなければならないのである。土地の活用、建築物の利用は抑圧され、諸行事の伝承、古建築の維持修理、都市の環境をまもるだけでも相当の努力を必要とするし、それでも次第に崩れつつある。

こういう問題に直面すると、私としては忘れられない言葉がある。

かつて京都に国立近代美術館を創設された折の館長、今泉篤男先生のことばの中に、「エジプトの彫刻には、こまかな面があり、手でさわると、よくそれが判る。南方の海洋民族は、波の中に微妙なひだを見、これによって方位が判る。現代の刺激の強い都市生活をしていると視力が衰退して見えなくなっている。京都はおだやかな自然に囲まれ、他の近代都市には無い環境に育った感性の優れた人達の世界だ。それで大いに期待して近代美術館を京都に開いた」といわれた。これは京都の人間として、自負に値すると思う。

自分の仕事に関すること以外は、大きいこと



二条城を見学する外国人観光客



八坂神社と 文化財

真弓 常忠

八坂神社は、一般に「祇園さん」と親しまれ、ことに祇園祭は日本の祭の代表として世界的にも有名である。

この八坂神社に伝来されている文化財は頗る多く、社殿等の建造物、古文書、その他の社宝がある。

その一々について以下略述しよう。

一本殿—

八坂神社の社殿は、本殿と拝殿をさらに一つ屋根で覆った形の祇園造と称する広大な建物である。

承応3年（1654）将軍家綱の命により、京都所司代板倉重宗が奉行として再建、桁行七間、梁間六間、入母屋造、檜皮葺、東・西・北面庇付、正面三間向拝、北庇に三間のあかだな（閼伽棚）がある。

この様式は、承平5年（935）の太政官等『二十二社註式』に本殿・礼堂の二棟のあったことが知られ、さらに元徳3年（1331）の祇園社絵図では、この二棟が一つ屋根に描かれていて、現在の建物がよく古制を保っていることが判明する。

—蛭子社—

正保3年（1646）の建造にかかり三間四面、単層、東・西・南三面に一間庇付、流造、柿葺。大床正面の剣・巴文の飾金具は本殿内陣のものと、材質・文様・技法等すべて同じである。

—西楼門—



や さか じん じゃ
八 坂 神 社

（東山区祇園町北側）

素戔鳴尊、櫛稲田姫命およびその御子八柱神を祭神とする。

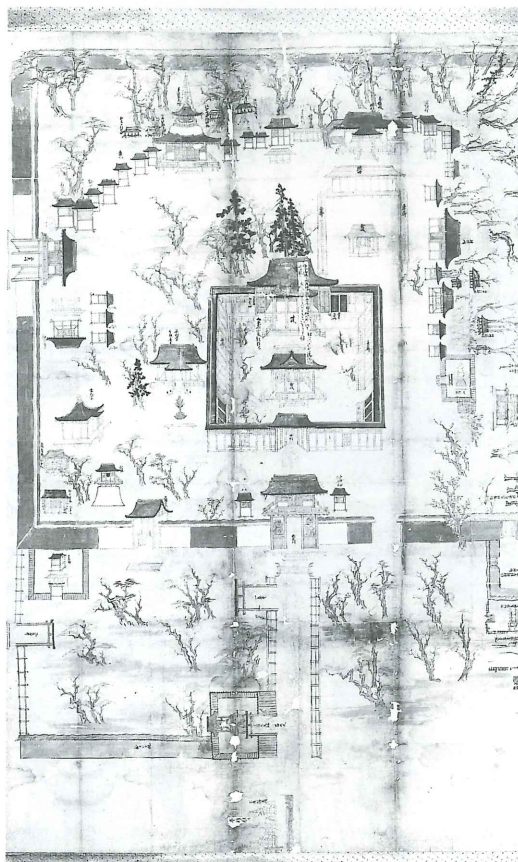
八坂神社は明治以後八坂社と称し、古くは祇園社と呼ばれ一般に「祇園さん」の名で親しまれており、全国祇園社の根本神社である。この神社は貞観18年（876）僧円如が牛頭天皇を迎えたのがおこりといわれ、牛頭天皇が素戔鳴尊になって現れたといわれる疫病除けの神である。疫病流行にさいし京都の人々はこの神を祭って疫神をはらおうとした。こうして祇園会がはじまり、平安時代中期から山鉦巡行もおこり、幾多の変遷を経て、現在も毎年7月祇園会が当社の祭礼として盛大に行われる。

一方、本殿は、平安時代のはじめ藤原基経がこの地に観慶寺感神院を建て寺内に本殿を設けたのがはじまりといわれる。

現本殿（重要文化財）は、承應3年（1654）の再建であるが、平安時代末期の様式を伝え祇園造として有名である。

東山通に面する楼門は西門で室町時代の建物（重要文化財）である。

なお毎年元旦未明に行なわれるおけらまいりも有名で多数の京都市民でにぎわう



祇園社絵図 重要文化財

応仁の乱で焼亡したあと、明応6年（1497）

桧皮葺で再建。

永禄年間（1558～1570）本瓦葺に替え、明治45年（1912）解体修理、大正2年（1913）四条通拡張に伴い、東北へ若干移動し翼廊を建てた。三間一戸、切妻造、けらば（蟬羽）が深く軽快・優美な建築美を保っている。古来、夜叉門ともかごもん（籠門）とも称され、市民に親しまれてきた。

—祇園社絵図—

元徳3年（1331）祇園社絵所大絵師隆圓筆。

紙本著色、縦165.9cm、横106.8cm。

裏書による二本図は正安4年（1302）の模本であり、更に寛和2年（986）の原本（法眼丹念筆）があったことが知られる。

現在京都国立博物館に管理を委託している。

—洛中洛外図屏風—

紙本金地著色、二曲一隻。縦82.5cm、147.9cm。

製作年代は不評であるが、図中の大仏殿の鐘楼の存在、町並の景観から、元和元年（1615）以降寛永初期迄、筆者は土佐派系と推定される。

—八坂神社文書—

古来、八坂神社に伝来する古文書130通、および社務執行宝寿院伝来の文書2300点余がある。

後者は、宝寿院執行繁継が明治元年還俗して建内氏を称したので建内文書と称し、すべて卷子本に仕立てて、厳重に保管している。

—八坂神社記録（7冊）—

康承2年（1343）より応



狛犬像 一对 重要文化財

安5年（1372）に至る約30年間の日記体記録で、南北朝時代の京都・武家を中心とした社会情勢を知る貴重な史料である。

—社家條々記録—

社務執行晴頭の自筆本。元享3年（1323）の日付があり、祇園社の鎮座沿革を記録した貴重な資料。

—狛犬 一对—

運慶作と伝えられ、承安2年（1172）源頼朝の奉納にかかる。阿形・呌形とも高さ621cm写実的にして剛健な鎌倉時代の気風を表わしている。

（八坂神社宮司）



西楼門 重要文化財

上賀茂さんやれ

上賀茂さんやれは、毎年2月24日に京都市北区の旧上賀茂7地区（山本町・池殿町・中大路町・南大路町・竹ヶ鼻町・岡本町・梅ヶ辻町）において行われる成人への通過儀礼として伝えられている行事です。

この行事は、15歳に達した男子（アガリという）を主役として行われます。アガリが、締太鼓を持ち、このほかタイショウギ（近くの山から伐り出してきた椎などの樹木で、神の依り代として意味をもつ）や鉦などを持った12歳から14歳までの子供たちが行列を作って共に囃しながら町内を回った後、太田神社、上賀茂神社、山の神にお参りするものです。

この上賀茂さんやれの起源は、岡本町に伝存する鉦に銘があることから、少なくとも江戸時代初期には行われていたことが明らかになっています。

又、囃しは、室町時代の風流はやしものの遺



京都市北区上賀茂地域に古くから伝わる上賀茂さんやれ

風を伝えているといわれています。

上賀茂さんやれは、成人への通過儀礼のあり方を伝える貴重な伝統行事として、昭和60年京都市の無形民俗文化財に登録されました。



上賀茂さんやれ について

芝 昭 夫

毎年2月中頃の夜になると上賀茂の各町で今年数え年15歳になった男の児の家の一軒を選んで『宿』とし、15歳以下の男子許りがこの『宿』に寄り集って、祭囃子の稽古を始め、鉦・太鼓を打ち鳴らしながら夜の街を練り歩く子供の群を見る事が出来る。これが2月24日のサンヤレ祭の練習である。京の底冷えと雪の降る寒い夜も、かじかむ手足、暗い夜道も辛抱して頬を真っ赤にして、一心に鉦と太鼓の拍子を合わすべく、打ち鳴らして歩く姿は、誠に頼ましく可愛いものである。2月24日10時頃より各町毎に14歳の児が先頭となって鉦を首から胸の前に吊し、チャンキキチンと叩き、その後ろを15歳の児が太鼓をドンドンと打ち鳴らし、その後ろから13歳の児が大將木を棒持し、その後ろを12歳以下当歳の児まで、めいめい紙垂を垂らした青木を持ち、「オンメデトウーゴーザール」と囃しながら太田神社へ、一町内ごと、一団となって詣って行くのである。太田神社では、お祓いと御祈禱、翁唄神楽を受け、神酒を受け頂き、鉦・太鼓で囃子ながら、本殿を左廻りに3度巡り、『山の神』の聖地に詣で、小石を積み、青木と神饌を供え、囃子をし3巡して下山、上賀茂神社に参拝し楼門内でお祓いを受け、祝詞

屋前庭に進み御祈禱を受け、神酒を頂いての囃子を一通りし列次を整えて囃子ながら宿に帰るのである。

これを上賀茂に伝わる土俗の祭でサンヤレ祭と称し、15歳の男子の成人を祝う、各町ごとに仕来たりで参拝の順序も異なる。

例えば

宿→山神→太田神社→上賀茂神社→宿

宿→太田神社→山神→上賀茂神社→宿

宿→太田神社→上賀茂神社→山神→宿

サンヤレ祭には上賀茂の杜家の息子は加わず、明治以前よりこの上賀茂の里に住んでいる農家、大工、商家などの息子許りで結成され、現在サンヤレ祭の行列を出す町は、7ヶ町ある。

この日『あがり』の15歳の男子は、祭の中心、花形で、大人になった標しとして新調した大島の着物や羽織を着せて貰い、白絹のマフラー、白手袋、桐の下駄を履く。袂のある着物、羽織を着る事は、この日を期して大人の仲間入りするために氏神へ奉告に行く、元服祭、成人祭だと云う。

宿では毎夜の練習中も少年達の好物の食事やおやつの用意をし、祭の当日は、朝、昼、晩と赤飯、五目寿司、お頭付の魚、もち、うどん等、大変な御馳走（各町の仕来りに依り、献立は異なり、現在までも引き継がれている）を頂くばかりでなく、当歳の男子に至る迄一人前の料理を出すのであるから、宿の主婦や「あがり」の児を持つ親は大変な出費と準備が要るのである。

朝6時頃に太鼓や鉦で食事の準備が出来たことを町内中にふれ廻る、この知らせがあると町内の子供達は一人一人お膳を持って宿へ続々と



行列を組んだ子供たちが太鼓や鉦をもち囃しながら町内をまわり、上賀茂神社などに向い参拝する

集って来て、座敷に上がり食事をするのである。帰りには、持ってきたお膳に山盛の御馳走を貰って行くのである。その様子は、子供達の数が3・40人もいた頃は、大変なものである。

行列の大將木（青木の先頭）を持つのも13歳になる子供達の競い合う程であった。

現在は、子供の数は出生率の低下で半数以下に減ってしまい、「あがり」のいない町内も見られ、大將木も随分と細い枝になり、寂しいかぎりである。

文献にはサンヤレ祭を「幸在祭・三鬼打祭・山生祭・山荒祭・山野霊祭」とも記され、当時の「あがり」の男子の「山籠もり」なども記されているのである。

（上賀茂さんやれ連絡協議会役員）

京の主な年中行事 (11月～1月)

11月

- 1日 亥子祭 (午後5時) 護王神社
1～30日 七五三詣り 市内各神社
3日 狸谷山不動尊秋まつり 狸谷不動院
(午後1時)
3日 曲水の宴 (午後2時) 城南宮
5～15日 十日十夜別時念仏会 真如堂
開扉(5日午後5時)
十夜念仏(5～14日午後6時～7時)
結願お練り(15日午後2時)
6日 上卯祭 (午前11時) 松尾大社
8日 火焚祭 伏見稲荷大社
本殿祭(午後1時) 火焚神社(午後2時)
御神楽(午後6時)
8日 火焚祭 (午後2時30分) 花山神社
8日 かにかくに祭 祇園白川橋畔
(午前11時～午後2時)
13日 うるし祭 (午前11時) 虚空蔵法輪寺
14日 空也堂開山忌 (午後1時) 空也堂
14日 火焚祭 (午後3時) 新日吉神宮
14日 嵐山もみじ祭 嵐山渡月橋
(午前10時30分～午後2時)
15日 法住寺大護摩供 法住寺
(午後2時～4時)
16日 火焚祭 (午後2時) 恵美須神社
21～28日 報恩講 東本願寺
22日 聖徳太子御火焚祭 広隆寺
23日 筆供養 (午後2時) 東福寺正覚庵
23日 火焚祭 (午後1時) 車折神社
23日 もみじ祭 (午後2時) 地主神社



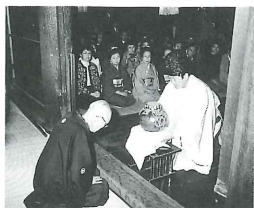
七五三詣り



城南宮曲水の宴



東福寺正覚庵筆供養



北野天満宮御茶壺奉献祭

26日 御茶壺奉献祭 (午前11時) 北野天満宮

12月

- 1日 北野天満宮献茶祭 北野天満宮
(午前10時)
1日 皇服茶奉納会式 (午後2時) 六波羅蜜寺
1～8日 蠟八会 禅宗各本山
3日 交通安全祈願祭 (午後2時) 交通神社
5日 終い大国祭 (午後2時) 地主神社
7・8日 成道会法要と大根だき 千本釈迦堂
午前10時～午後4時 大根だき
8日午前9時～ 成道会法要
8日 針供養 虚空蔵法輪寺
(午後1時30分)
8日 針供養 (午後1時) 針神社
9・10日 鳴滝の大根だき 了徳寺
(午前9時～午後4時)
10日 終い金比羅 安井金比羅宮
13～31日 かくれ念仏 六波羅蜜寺
(毎日午後4時～)
14日 義士まつり 山科
(午前9時 毘沙門堂出発)
14日 義士会法要 (午前11時) 法住寺
21日 終い弘法 東寺
25日 終い天神 北野天満宮
25日 御身拭式 (午後1時) 知恩院
28日 終い不動 狸谷不動院
31日 おけら詣り 八坂神社



千本釈迦堂大根だき



法輪寺針供養



東寺終い弘法



八坂神社おけら詣り

1月

- 1日 歳旦祭 市内各神社
1日 修正会 各寺院
1～3日 新年祈禱祭 狸谷不動院
1～3日 初大国祭 地主神社
1～3日 皇服茶 (午前8時～午後5時) 六波羅蜜寺
1～3日 若水祭 日向大神宮
2日 新始め (午前10時) 広隆寺
2～4日 筆始祭・天満書 北野天満宮
(午前9時30分～午後3時)
3日 かるた始め (午後1時) 八坂神社
3～5日 毘沙門堂初寅大祭 毘沙門堂
4日 鞍馬寺初寅大祭 鞍馬寺
4日 蹴鞠始め (午後2時) 下鴨神社
5日 大山祭 (正午) 伏見稲荷大社
5日 新年寛宴祭 上賀茂神社
(午後4時30分～)
5日 八千枚大護摩供 赤山禅院
(午前8時～午後4時)
7日 白馬奏覧神事 (午前10時) 上賀茂神社
8～12日 初ゑびす 恵美須神社
9～16日 御正忌報恩講 西本願寺
9日 初大国祭 下鴨神社
10日 初金比羅 安井金比羅宮
12日 奉射祭 (午後2時) 伏見稲荷大社
14日 法界寺裸踊り (午後7時) 法界寺
14日 御棚会神事 (午後2時) 上賀茂神社
15日 柳のお加持と弓引き初め 三十三間堂
(午前8時～)
15日 七福神めぐり (日出～日没) 泉涌寺
15日 初六阿弥陀めぐり 真如堂・永観堂
清水寺阿弥陀堂
安祥院・安養寺
誓願寺
16日 歩射神事 (午前11時) 上賀茂神社
20日 湯立神楽 (午後2時) 城南宮
21日 初弘法 東寺
25日 初天神 北野天満宮
28日 初不動 狸谷不動院

※都合により行事が中止又は日程が変更される場合があります。



新始め



下鴨神社蹴鞠始め



法界寺裸踊り



三十三間堂通し矢

回第29回未公開文化財特別拝観

期 間：11月1日(月)～11月10日(水)

午前9時～午後4時

拝観料：1カ寺 600円

主 催：(財)京都古文化保存協会

〈お問い合わせ (075)561-1795〉

寺院名		主な文化財	備 考
大徳寺	本 坊	方丈・襖絵・庭園	1～10日公開・3・5日休み 北区大徳寺
	真珠庵	襖絵・通徳院・庭園	1～7日公開
	芳春院	本堂・呑湖閣・庭園	1～10日公開
	聚光院	襖絵・茶席・庭園	1～10日公開
	黄梅院	本堂・襖絵・庫裡・茶室・庭園	1～10日公開
法 然 院		本堂・襖絵・庭園	1～7日公開 左京区鹿ヶ谷
安 楽 寺		本堂・松虫・鈴虫像 庭園	1～10日公開 左京区鹿ヶ谷
霊 鑑 寺		襖絵・人形・玩具・ 庭園	1～10日公開 左京区鹿ヶ谷
高 台 寺		開山堂・茶室・庭園	1～10日公開 東山区高台寺
法 観 寺		八坂の塔・茶室・ 法観寺参拝曼荼羅園	1～10日公開 東山区清水
成 就 院		書院・庭園	1～10日公開 東山区清水寺
妙 法 院		大書院・庫裡・宝物 館・庭園	1～10日公開 東山区東山七条

平成5年度

四五行事の保存執行に対し助成

京都の四五行事である葵祭、祇園祭、大文字五山送り火、時代祭の保存執行のため、毎年各行事実施前に執行団体である各協賛会及び保存会に対し助成を行っていますが、本年度も総額4,648万円の助成金を交付いたしました。

なお、祇園祭山鉾修理及び文化観光資源保護事業、伝統行事芸能保存執行等に対する助成についても今後交付を予定しています。

今回の四五行事に対する助成内容は以下のとおりです。

四五行事の保存執行に対する助成

助成総額 4,465万円

—助成対象—

- ・葵祭行列執行（葵祭行列協賛会）
- ・祇園祭山鉾巡行執行（祇園祭協賛会）
- ・大文字五山送り火点火執行（大文字五山送り火協賛会）
- ・大文字五山火床整備（大文字・松ヶ崎妙法・船形万灯籠・左大文字・鳥居形松明各保存会）
- ・時代祭行列執行（時代祭協賛会）



時代祭



大文字五山火床整備。写真は、松ヶ崎妙法火床及び山道改修工事。

伝統行事芸能指導者育成助成事業

京都の伝統行事芸能の保存継承を図るため、当財団で助成対象としてます各保存団体の指導者の方々に意識の普及高揚につとめていただくため、伝統行事芸能指導者育成助成事業を行っています。

本年度は、去る9月19日(日)大阪府河内長野市において開催されました第35回近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会に京都の代表的な民俗芸能である「やすらい花」の保存継承に務めておられる各保存会の指導者15名を派遣し、各地域の民俗芸能を鑑賞していただくとともに、地域活動の実態等についても相互の交流を深められ、保存継承についての意識の普及向上につとめていただくことができました。

平安建都1200年

「文遊回廊」事業研究会を開催

平安建都1200年を機に、京都市域にある文化観光資源をテーマ別にネットワークし、そのポイントを整備し、文化都市京都の発展を図ることを目的に、現在京都市とともにすすめています平安建都1200年記念事業「文遊回廊—ヒストリカルトレイル—」の具体化をすすめるための研究会を去る7月29日開催しました。

研究会は、山崎正史・立命館大学助教授を中心に足利健亮・京都大学教授、脇谷 壽・同志社女子大学教授、川嶋将生・立命館大学教授をはじめ調査を担当する建築・都市意匠研究所、当財団事務局等が集い、討議意見交換など行いました。

今後更に、資料の収集や現地調査など基礎調査を重ねるとともに適宜、同研究会を開催し、基本構想の策定と事業の具体化に取り組んでいく予定にしております。

第63回文化財特別参観実施報告
京の夏の旅「文学ロマンの旅」

“祇園女紅場” “相国寺 瑞春院”を見学

第63回文化財特別参観「京の夏の旅 文学ロマンの旅—祇園女紅場（祇園甲部歌舞練場）・相国寺 瑞春院—」の特別参観を去る7月24日～9月30日実施しました。

今回は、京都市観光協会が毎年実施しています京都の夏の観光イベント「京の夏の旅」に会員の方々をご招待したもので、期間中延べ約

1,264名の会員の方々がそれぞれ個人見学されました。

役員の変動

役員の死去並びに団体等の代表者の交替に伴い新役員が選任されました。

（敬称略・順不同）

新任役員

- 評議員 庄司成男（宮内庁京都事務所長）
〃 明間輝行（東北経済連合会会長）
〃 浦上敏臣（社団法人生命保険協会会長）
〃 川原陸郎（京都府信用金庫協会会長）

退任役員

- 評議員 児嶋 弘（前 宮内庁京都事務所長）
〃 玉川敏雄（前 東北経済連合会会長）
〃 若原泰之（前 社団法人生命保険協会会長）
〃 中野清治郎（京都府信用金庫協会顧問 逝去）
〃 日向方斎（住友金属工業株式会社相談役 名誉会長 逝去）
〃 三浦 懋（株式会社島津製作所相談役 逝去）

事業のご案内

平成 6 年版

文化財カレンダーのお知らせ

毎年、京都の文化財をテーマに製作しています当財団のオリジナルカレンダー平成 6 年版は、「平安建都1200年 みやびの文化財」をテーマに発行いたします。

平安建都1200年にあたり、日本のみやびな伝統文化を伝える御所や離宮及び皇室ゆかりの門跡寺院の文化財を鮮やかに掲載いたします。

会員の皆様方で当カレンダーをご希望の方は、下記の要項によりお申し込み下さい。

□掲載内容 京 都 御 所 紫 宸 殿
仁 和 寺 御 室 桜 と 五 重 塔
桂 離 宮 書 院 と 庭 園
知 恩 院 方 丈 と 庭 園
大 聖 寺 門 跡 宮 御 殿 と 庭 園
修 学 院 離 宮 上 離 宮 庭 園



仁和寺 御室桜と五重塔

□規 格 B 3 サイズ・7 枚もの(表紙含む)
6 色刷カラー

□申込方法 文化財カレンダー申込及び住所、氏名(法人の場合は、法人名と代表者名)を記入し、切手360円分(郵送料)を同封のうえ封書によりお申し込み下さい。

□申込期限 12月15日まで

□申 込 先 〒606 京都市左京区岡崎最勝寺町
京都会館内

京都文化観光資源保護財団 宛
注・申し込み資格は、当財団会員に限りです。

- ・申し込みは、1 人につき 1 部とします。
- ・なお、申し込み多数の場合は、抽選となりますのでご了承下さい。
- ・カレンダーの発送は、12月中旬の予定です。



桂離宮 書院と庭園

平安建都1200年記念
第 5 回京の歳時記展

「みやびの遊び」開催

京都の文化財のよさと文化財保護意識の高揚を図ることを目的に毎年「京の歳時記展」をおこなっています。

第 5 回目を迎えます今回の本展は、平安建都1200年を記念し、「みやびの遊び」をテーマに開催いたします。

平安時代から連綿と伝えられてきた様々な伝統文化の中から、特に華やかなみやびの文化を偲ばせる遊戯具をとりあげご紹介いたします。

□期 間：平成 6 年 2 月 5 日～27 日

□場 所：京都市四条ギャラリー
(京都市下京区四条高倉東入 四
条東洋ビル地下)

□開館時間：午前10時～午後 7 時

□休 所 日：毎週水曜日

□内 容：尼門跡寺院に伝わる貝合せ、双六盤、投扇、御所人形等の雅やかな遊戯具を展示紹介します。

□入 場 料：無料

平安建都1200年記念公演

「京の四季」祭・まつり

第24回 京の郷土芸能まつり

京の三大祭(葵祭・祇園祭・時代祭)や伝統のある祭で華やかに演じられる芸能を一堂に集め舞台で紹介します。

□日 時 平成 6 年 3 月12日(土)

開場14:00・開演14:30



京の郷土芸能まつり

□会 場 京都会館第 1 ホール
(京都市左京区岡崎最勝寺町)

□出演芸能 葵 祭「東遊び」
祇園祭(重要無形民俗文化財)
「長刀鉾祇園囃子」
「祇園太鼓」
「祇園田楽」
夏 祭「中堂寺六斎」
(重要無形民俗文化財)
秋 祭「八瀬赦免地踊」
(京都市登録無形民俗文化財)
時代祭(京都市登録無形民俗文化財)
「維新勤王隊」
「徳川城使上洛列」

□入 場 料：前売券1,300円 1 月初旬より京都市
(全席指定) 内百貨店プレイガイド、京都市文化ホール運営センター、京都市内観光案内所で発売

当日券1,500円

「千二百年の歴史 教王護国寺を訪ねて」

今回の特別参観は、京都市で催される文化財特別公開事業「千二百年の歴史 教王護国寺を訪ねて」にご案内いたします。

未公開の五重塔内部、小子房、宝物館（特別展）をはじめとする貴重な文化財を鑑賞していただきます。

□日 時 平成5年11月25日(木)～27日(土)の3日間

□場 所 教王護国寺(東寺)(南区九条町1)

□参加資格 財団会員(募金協力者)で16才以上
□申込方法 封書による申込制(会員に限り
ます。ただし、特別会員については
同伴1名まで申し込みます。)

参観希望者の住所、郵便番号、氏名、年齢、電話番号、*参観希望日を記入し、切手41円同封の上お申込み下さい。

*参観時間は当方で指定します。

□申込期限 11月15日(月)まで必着

□申 込 先 〒606 京都市左京区岡崎最勝寺町 京都会館内

京都市文化観光資源保護財団宛

—表紙写真解説—

■建仁寺 開山堂方丈襖絵

当寺は、栄西禪師が建仁2年(1202)に創建した臨済宗建仁寺派の本山で、栄西禪師をまつる開山堂方丈は、明治10年に妙心寺塔頭の玉龍院から移建されたものと伝えられている。

当開山堂方丈襖絵は、原在中、加藤文麗及び筆者不明の三画家による作品といわれている。

亀裂、虫喰などによる破損が著しいことから、当財団の助成もあり平成3年度より3カ年計画で修理が行われている。



東寺五重塔内部

編 集 後 記

□当会報では、京都の文化財の保護に取り組んでおられる方々や京都のよきを守るため様々な活動をしておられる方々にご寄稿をお願いし、日頃の活動や苦労話又、京都に対する想いなど出来るだけ生の声を掲載出来るよう心掛けております。

文化財をはじめ京都のよきを守り育てていくためには、所有者管理者等当事者の方及び関係者だけの力では到底無理であります。

本誌を通じて、一人でも多くの方々に文化財に対する理解と認識を深めていただき、ご支援ご協力をいただけるよう今後も編集に取り組んでいきたいと存じます。

——断ち切ろう身近な差別を私から

一日も早く同和問題の解決を——

